

2021年11月19日

地域プロモーションアワード2021(旧地域プロモーション大賞) 決定

大賞は高知県四万十町[パンフレット] 青森県大鰐町[動画]

主催：一般財団法人地域活性化センター 後援：一般社団法人共同通信社、株式会社時事通信社

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報 PR 活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード」を実施しています。

この度、「地域プロモーションアワード2021」の各賞が決定しましたので、下記のとおり発表いたします。
なお、大賞受賞団体の表彰式を2021年12月13日(月)に開催いたします。

記

1. 名称 地域プロモーションアワード2021(旧地域プロモーション大賞)
ふるさとパンフレット大賞(第9回)、ふるさと動画大賞(第3回)

2. 受賞作品

ふるさとパンフレット大賞(第9回)

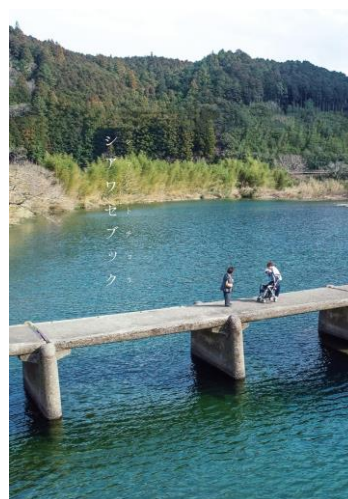
応募数：109点

受賞作品数：7点

賞(各1点)	受賞自治体(上段)・作品名(下段)
大賞	高知県四万十町 シマントチョウ シアワセブック
優秀賞	岩手県普代村 普代村を守った奇跡の水門
南伸坊賞	北海道美唄市 BIBAI DESTINATION GUIDE
楓千里賞	山梨県富士吉田市 HATAORI-MACHI FESTIVAL GUIDE BOOK
バックン賞	栃木県栃木市 Tochigi City Real Visual Magazine "aru" vol.4
マックン賞	千葉県長生村 ライフスタイル&観光ガイド「LONG AND LIVE」
地域活性化センター賞	岩手県花巻市 宮沢賢治花巻まち歩きファンブック

大賞 高知県四万十町

シマントチョウ シアワセブック



ふるさと動画大賞(第3回)

応募数：143点

受賞作品数：8点

賞(各1点)	受賞自治体(上段)・作品名(下段)
大賞	青森県大鰐町 家族のかたち、大鰐のくらし
優秀賞	新潟県佐渡市 SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists
箭内道彦賞	京都府福知山市 福知山市コンセプトムービー「光秀マインド」(3分ver.)
秋古久美子賞	岐阜県郡上市 The snowy landscape of Japan's heartland【Gujo,japan】
木川剛志賞	福井県越前市 手仕事を巡る旅 越前叡智【えちぜんえいち】 Craft Tourism Echizen
松原亨賞	山梨県富士吉田市 西裏 Nishiura Bar District
谷中修吾賞	滋賀県長浜市 長浜市公式MV「We Want Ones -長浜市役所で働こう-」(職員採用PRソング)
地域活性化センター賞	富山県富山市 AMAZING TOYAMA ~この地を選んだ理由~【ダイジェスト版】

大賞 青森県大鰐町

家族のかたち、大鰐のくらし



※実施要領は当センターHPに掲載しています。

<https://www.jcrd.jp/publications/pamphlet/>

お問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター 広報・プロモーション課

パンフレット大賞：丸山 動画大賞：竹本

TEL：03-5202-6137 E-mail：kouhou@jcrd.jp

ふるさとパンフレット大賞（第9回）審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、ふるさとの魅力を発信するプロモーションを支援するため、地域の魅力を独自のセンスで発信している優れたパンフレットを表彰し、全国に紹介する「ふるさとパンフレット大賞」を平成25年度から開催している。

パンフレットによる地域情報発信を引き続き支援するため、「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさとパンフレット大賞」を開催し、全国各地の趣向を凝らしたパンフレットを募集、表彰する。

審査委員

審査委員長	南 伸坊 氏	(イラストレーター)
審査委員	楓 千里 氏	(國學院大學研究開発推進機構 教授)
	パクン 氏	(お笑いコンビ パクンマクン)
	マクン 氏	(お笑いコンビ パクンマクン)
	北村 潤一郎	(一般財団法人地域活性化センター 常務理事)

応募作品数

109点

受賞作品数

7点

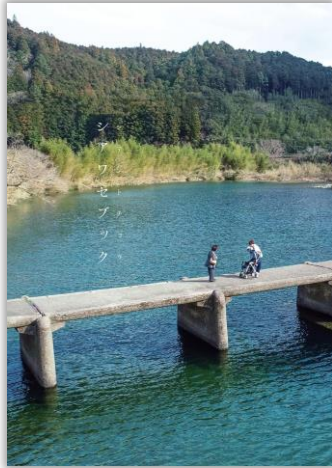
賞（各1点）	受賞自治体（上段）・作品名（下段）
大賞	高知県四万十町
	シマントチョウ シアワセブック
優秀賞	岩手県普代村
	普代村を守った奇跡の水門
南伸坊賞	北海道美唄市
	BIBAI DESTINATION GUIDE
楓千里賞	山梨県富士吉田市
	HATAORI-MACHI FESTIVAL GUIDE BOOK
パクン賞	栃木県栃木市
	Tochigi City Real Visual Magazine "aru" vol.4
マクン賞	千葉県長生村
	ライフスタイル&観光ガイド「LONG AND LIVE」
地域活性化センター賞	岩手県花巻市
	宮沢賢治花巻まち歩きファンブック

ふるさとパンフレット大賞（第9回）入賞作品

《大賞》

高知県四万十町

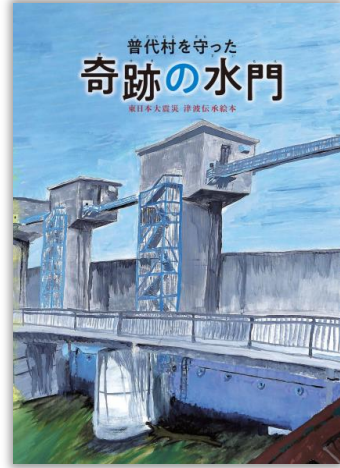
シマントチョウ シアワセブック



《優秀賞》

岩手県普代村

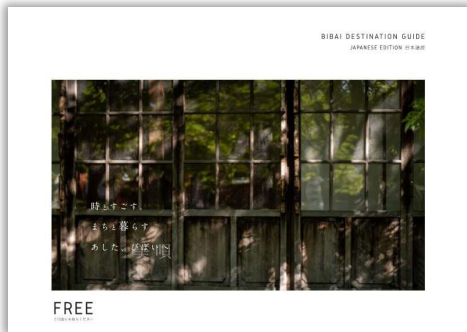
普代村を守った奇跡の水門



《南伸坊賞》

北海道美唄市

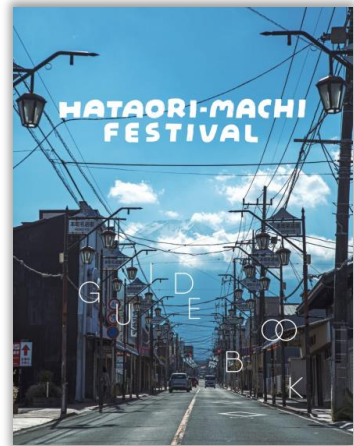
BIBAI DESTINATION GUIDE



《楓千里賞》

山梨県富士吉田市

HATAORI-MACHI FESTIVAL GUIDE BOOK



《パッケン賞》

栃木県栃木市

Tochigi City Real Visual Magazine
"aru" vol.4



《マックン賞》

千葉県長生村

ライフスタイル&観光ガイド
「LONG AND LIVE」



《地域活性化センター賞》

岩手県花巻市

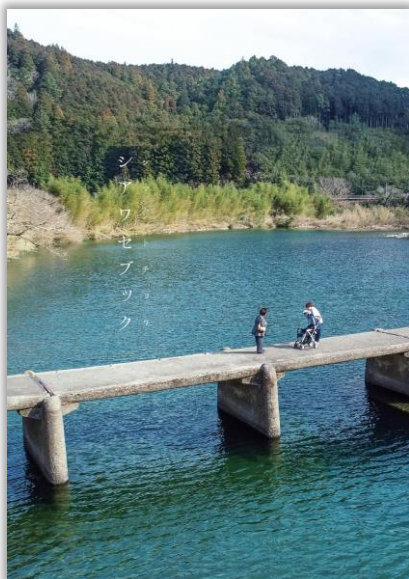
宮沢賢治花巻まち歩きファンブック



大賞

高知県四万十町

シマントチョウ シアワセブック



作品概要

都会や他の田舎とは違う四万十町の自然や日常風景、まるで知り合いのアルバムを見ているかのような写真を掲載しています。飾らず素のままの四万十町を感じていただけるよう、写真を多く、説明文は必要最低限にしています。決して移住を勧めるだけのパンフレットにはならないよう、まずは四万十町へ興味を持っていただけるきっかけになるようにと制作しました。

また、配架場所も町内各所だけではなく、東京都・大阪府などの協力店舗などでさまざまな方に手に取っていただけるよう選んでいます。

審査コメント（講評より抜粋）

- デザインワークが優れています。写真が美しく、レイアウトが巧みであって、写真の魅力もそれぞれのモノや人の魅力を引き出して申し分ない。小さくていい写真を小さくして、小さいから魅力的に見せる。大きく使いたい写真は惜しげもなく大きく使い、だから魅力をさらに発揮する。そしてページをひらくごとに目を楽しませるリズムが素晴らしい。文句なしの大賞でした。
- 圧倒的な写真の力を感じます。川と海の透明感、沈下橋の日常、イキイキとした自然が写真から伝わり、ぐいぐい引き込まれました。シマントチョウに密着している写真家だからこそ、シャッターを押せた作品だと推測します。「楽しいにんげん」に登場する方々のお人柄を表しているテキストも秀逸です。余白を取ったデザインですっきりしていますが、シマントチョウがずっしり詰まった重みを感じさせてくれる、一冊に仕上がっています。
- とにかく水の写真が綺麗で、これだけでも十分幸せな気分になれる。ガイドブックとしての実用性を兼ね備えているところもイイね。



受賞団体コメント（四万十町にぎわい創出課移住定住係）

この度は、このような荣誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。

この「シマントチョウ シアワセブック」は、約20年前に移住して来られたクリエイターに制作を依頼しました。移住者として、また、長年四万十町で生活をして感じたこと、町について町職員と雑談してきたことなどの積み重ねが礎となっています。

制作にあたっては、移住を勧めるだけの内容とならないよう、豊富な町の魅力を多く届けられるようにとの思いで「写真」を多めに、「キャッチコピー」は誇張せず、ありのままの表現で伝えています。

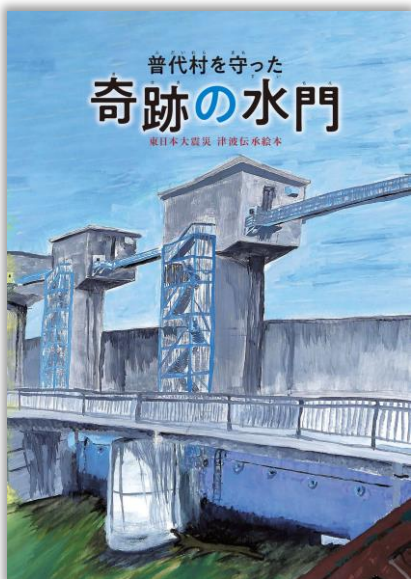
このパンフレットをきっかけに多くの方に「四万十町」を知っていただき、一人でも多くの方に訪れていただければと思っています。

今回の受賞を励みに、より一層町の魅力を発信していきます。

優秀賞

岩手県普代村

普代村を守った奇跡の水門



作品概要

絵本部分は、小学生でもわかりやすい工夫をした。絵本後半の資料部分では、東日本大震災の概要、村の被害等を写真で解説を入れ、昔話ではなく、現実にあったことと強調するよう工夫した。さらに、震災学習に訪れる方には、手に取りやすいようにミニ絵本（A5サイズ）を作成した。

審査コメント（講評より抜粋）

- 「絵本形式」のパンフレットに始まって、実際に上製本の絵本にもなってしまった変わりダネですが、専門家の絵でも文でもないことが、親しみやすさやニュアンスの魅力を持っています。図書館に寄贈をすれば、新しい展開も望めます。初めから注目されていた作品でした。
- 普代村をフィールドとして、地域振興を学ぶ大学生が、村を救った水門の物語を、末永く語り継がれるようにとの思いを込めて制作した作品です。1枚1枚の絵は決して上手ではありませんが、力強さがあり印象に残ります。製本した絵本だけでなく、ミニ版を作成し手に取りやすくするアイデアも評価できます。
- ぜひとも次世代に伝えていきたい作品だ。



受賞団体コメント（普代村政策推進室）

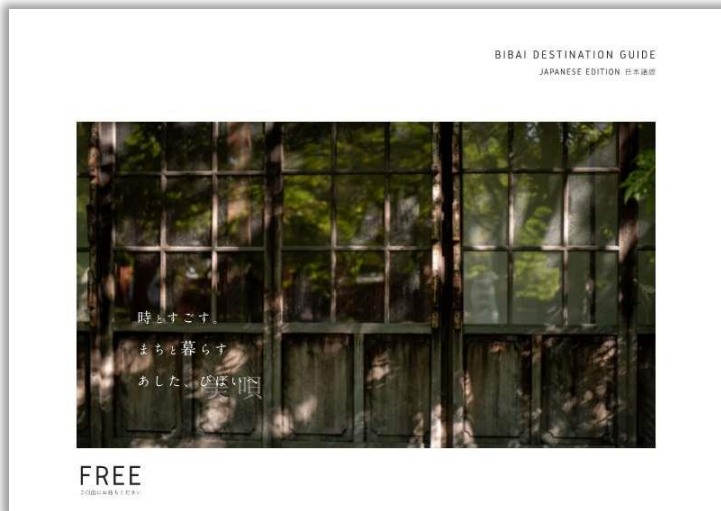
東日本大震災から10年が経ちました。普代村では、漁港は壊滅的な被害を受けたものの、東北一の高さを誇る「普代水門」と「太田名部防潮堤」が津波の威力を弱め、死者ゼロと奇跡的に被害を免れました。普代村は明治、昭和と過去に2度の大津波に襲われ439人もの犠牲者を出しています。その中で、大津波の歴史を知らない子供たちが増えています。その子供たちに津波の教訓を分かりやすく伝えるのが、「津波伝承絵本・普代村を守った奇跡の水門」です。絵本を活用した震災ガイドで水門に昇り海を眺めた時、これまでに亡くなった方々の願いを感じることがあります。「私たちのようにならないで」「みんな備えて」と。「大津波は必ずまた来ます」。これからも私たちはいろんな方々の思いのこもったこの絵本を活用し、子供たちの防災教育に、また多くの方々の防災意識の向上に役立つことを願いつつ、これまでご支援いただいた皆様に感謝し、震災ガイドの活動を続けたいと思っています。

この度は栄えある賞をありがとうございました。

南伸坊賞

北海道美唄市

BIBAI DESTINATION GUIDE



作品概要

窓や扉をイメージした写真のレイアウトにしています。さまざまな美唄のスポットを窓からのぞき見るように、扉を開けて外へ出かけるように使っていただけるよう工夫しました。



WEBパンフレットはこちら。
http://bibaikanko.jp/destinationguide/index.html#digital_pamphlet



南伸坊 審査委員長

審査コメント

いちばん目立っているのは「FREE ご自由にお持ちください」の、しかしごく控え目な小さな文字だ。「なんだろう？」と思って手に取ると、美しい写真と巧みなレイアウトが、ふつうの顔をして何気なく展開していく。写真の大小のつけ方がうまいので、どのページもとてもスッキリとまとまっている。その落ち着いたたたずまいが、落ち着いて文章を読ませる力になっている。さりげない様子で素晴らしく力が入った作品です。

受賞団体コメント（美唄市経済部経済観光課）

この度は、このような大変素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。

美唄市は、北海道空知地方のほぼ中央に位置する、人口約2万人ほどの小さなまちです。

山々に囲まれた豊かな自然、かつて炭都として栄えた歴史、そして美唄市だからこその歴史と人から生まれた美しさ。

そんな美唄市に訪れたいくなる、時に触れ、まちに触れてほしい。そんな想いを「時と過ごす。まちと暮らす。あした、びばいへ」というフレーズに込めて、本誌を作成しました。

まずは手に取って見てもらい、もっと知りたい、訪れてみたいと思っていただけるように、撮影した雰囲気や損ねないように写真を現像し、窓や扉のようにレイアウトすることで好奇心を誘えるような創りを目指しました。そのような制作背景から、あまり文字での説明を入れることはせず、本誌内にあるQRコードを読み取ることで、専用WEBサイトにリンクし、各スポットの詳細を見ることができるようになっています。

本誌をきっかけに北海道美唄市を多くの方に知っていただき、窓からのぞいてみるように、靴を履き外へ出かける扉のように本誌を使っていただけたら幸いです。

楓千里賞

山梨県富士吉田市

HATAORI-MACHI FESTIVAL GUIDE BOOK



作品概要

富士山の麓に位置する富士吉田市は、古くから織物の産地として知られています。市内には当時の機屋の面影を残す建物や、機屋で働く人々が飲みに行ったであろう路地裏の飲屋街など、古き良き街並みが残っており、2016年から「ハタオリマチフェスティバル（通称ハタフェス）」という秋祭りが開催されています。

この冊子は、ハタフェスの5年間の軌跡をまとめた総合ガイドブックです。ハタフェスの概要はもちろん、織物産業に携わる人々や、富士吉田市のことも知っていただける内容になっています。

本の装丁は、コデックス装という糸綴の背中をそのまま見えるように仕立てており、背には綴じている糸が見えています。機織も糸によって織られている、そんな想いを本にも託しました。本の楽しさはページをめくっていくその流れの中にもあると思うので、内容とともに装丁も楽しんでいただきたいです。



楓千里 審査委員

審査コメント

山梨県富士吉田市の「HATAORI-MACHI FESTIVAL」も大賞と同様に、写真の力に圧倒されました。地場産業の織物に携わる職人の方や技術者の方が働く姿の写真には、すがすがしい尊さがあり、どの写真からもバックグラウンドミュージックのような機織り機の響きが聞こえてきます。仕事をする手が主役の写真も多く、しなやかな織物の温かみを伝えてくれています。

本の装丁は、糸綴の背中がそのまま見え、綴じている糸が見えるコデックス装で、ハタオリマチならではのこだわりです。用紙も3種類使用し、写真の発色効果を出すとともに、手触りも意識したはずですが、ハタオリマチを深く知る一冊として長く手元に置きたいと思っています。

受賞団体コメント（富士吉田市産業観光部富士山課）

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございました。

富士吉田市の「ハタオリマチフェスティバル」は「ハタオリ」の祭典であるとともに、この「まち」を楽しんでもらいたいという想いが詰まったお祭りです。この冊子は、ここで働く人々の営みや、今までとこれからの産地の目指す方向、富士山とともに生きる富士吉田市の景色やそこの生活、ハタフェスがあったから生まれたことなどをまとめています。イベントに携わるたくさんの人々の想いが綴られており、“今”の富士吉田の温度を感じられる一冊となっています。

「ハタオリマチ」の雰囲気表現するために、使用する紙や装丁にもこだわりました。内容と装丁を一緒に楽しみながら、富士吉田市の魅力を堪能していただければ幸いです。

パッケン賞

栃木県栃木市

Tochigi City Real Visual Magazine "aru" vol.4



作品概要

栃木市には、さまざまな魅力があります。

栃木市に「ある」日常を、栃木市に住んでいる人、栃木市に通っている人、栃木市に興味のある人、栃木市を知らない人へリアルな視点で伝えるプロモーション冊子が、Tochigi City Real Visual Magazine "aru"です。

各号テーマを決め、これまでにvol.1～vol.4を発行しました。取材や撮影のほとんどを市の職員が行い、取材先の生の声や生き活きとした魅力が読者に伝わるように工夫しています。

特に最新号（2021年3月発行）のvol.4では「フルサト」をテーマに、市内に住む外国人や、その暮らしを応援する人々など、さまざまな視点から、栃木市に「ある」魅力を紹介しています。



WEBパンフレットはこちら。

<https://www.city.tochigi.lg.jp/site/tochigicitypro/128.html>



パッケン 審査委員

審査コメント

パッケン賞として選んだ栃木県栃木市は、地元の外国人をテーマにした、とても珍しいパンフレットに仕上げました。ダイバーシティも今の日本の魅力だし、海外旅行ができないコロナ禍では栃木市で「国内の海外旅行」を満喫したくなりました！

受賞団体コメント（栃木市広報課）

この度は、素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。

Tochigi City Real Visual Magazine "aru"は、栃木市に「ある」日常を、リアルな視点で伝えるプロモーション冊子です。vol.4では「フルサト」をテーマに、市内に住む外国人や、その暮らしを応援する人々など、さまざまな視点から栃木市に「ある」魅力を紹介しています。

新型コロナウイルスの影響で、外国との距離ができた今だからこそ、市内にある異世界に目を向け、外国人の目線を通して、改めて栃木市の魅力やそれぞれのふるさとについて、関心を持ち、想いを馳せるきっかけになればと願い、心を込めて制作しました。

今回、パッケンさんに本冊子を評価いただけたことを大変嬉しく思います。この受賞をきっかけに、栃木市の魅力が少しでも全国の人に伝わり、日本人と外国人が共に「フルサト」を想いながら、心を通じ合わせる、そんな機会になれば幸いです。

マツクン賞

千葉県長生村

ライフスタイル&観光ガイド「LONG AND LIVE」



作品概要

村名を活かした「LONG&LIVE（長く、生き生きと）」をキャッチフレーズとし、“住みよさ”をテーマとした「LONG」と“観光・おもてなし”をテーマとした「LIVE」の1組のパンフレットとして作成。対となるデザイン、かつ、A5サイズとすることで、他の自治体との差別化を図りつつ、パンフレットとリンクしたランディングページ「LONG and LIVE」を開設し、パンフレットだけで終わらない、継続的な魅力発信を実施。

また、各誌の最初の見開きページにあるARマーカーにスマートフォンをかざすと、写真と連動した美しい海岸・田園風景の映像が流れ、さらに、表紙に施された香料印刷により、ページをめくる（擦られる）と「LONG」は草の香り、「LIVE」は海の香りが漂い、村の情景・空気を体感できる。さらに、公式プロモーション映画「長生ノスタルジア」と連動・相乗効果により、帰りたい・訪れたいという郷愁を想起させる仕組みとしている。



マツクン 審査委員

審査コメント

観光用と移住用の2冊に分けられているタイプのパンフレット。

まず観光用のパンフレットは観光時の遊び方、おすすめの食べ物など、村の楽しみ方がしっかりとPRされていて、しかもデザイン、構成もすごくしっかりと読みやすい一冊です。

移住用のパンフレットもデザイン、構成は同じなのですが、観光用とは違い、住んだときの村での遊び方、村の食文化など、この村での住み方の提案、この村で自分流に住んでみませんか？というアピールが、すごく上手く表現されていると感じました。

また、2冊に分けることで見る側が「同じようなパンフレットが2冊？何が違うんだろう？」と思わず手に取ってみたいくなるのではないのでしょうか。

受賞団体コメント（長生村企画財政課）

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

“千葉県唯一の村”長生村は、太平洋に面する日本有数の砂浜海岸『九十九里浜』の南端に位置し、平坦な地形と温暖な気候により育まれた豊かな自然が広がり、また、これらを活かした農業が盛んな村です。

突出した特色・目玉となるものがないことから、村のプロモーションの難しさを感じておりましたが、移住者を含めた村民の皆さんや観光で村を訪れる方には、かねてから「居心地の良さ・住みやすさ」「また来たくなる魅力」を感じていただいております。

こうした、“見えづらい・伝えづらいけど確かに存在している魅力”を形にして村の内外に発信したい、知ってもらいたいと考え制作したのが「LONG AND LIVE」です。

今回の受賞をきっかけに、村民の皆さんには自分が住む村を一層誇りに感じていただき、また、まだ長生村のことを知らない方が一人でも多く興味を持ち、村を訪れるきっかけになれば幸いです。

地域活性化センター賞

岩手県花巻市

宮沢賢治花巻まち歩きファンブック



作品概要

ガイドブックではなくファンブックにすることで、「宮沢賢治ファンがそこに行って何を感じたのか」「ファンが喜ぶポイントはどんなところか」を伝える。移住者の賢治ファンが作成したため、旅行者が欲しい「花巻の気候」や「最寄りのバス停」などの情報も盛り込んでいる。

PR方法は、岩手日報・岩手日日の新聞掲載、IBCラジオ、FM花巻のラジオでの紹介、IBCテレビ「わが町バンザイ」での紹介。SNSでの発信（Facebook、Twitter）。市のホームページ、観光協会でのホームページで紹介。花巻市の生涯学習講座「賢治セミナー」で配布。



WEBパンフレットはこちら。

<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/shisei/chiki/1014013.html>



北村 潤一郎 審査委員

審査コメント

素敵なイラストに惹かれて「宮沢賢治花巻まち歩きファンブック」を手にしたときに、「こんなパンフが欲しかったんだ！」という心の叫びが聞こえてきた。正直に言って自分は賢治の大ファンという訳ではないが、花巻に行ったらこのパンフを手にもち歩きをしたいと思った。こんなパンフが日本中に広がったら本当に嬉しい。

受賞団体コメント（花巻市地域振興部定住推進課）

この度は、大変光栄な賞をいただきありがとうございます。

このファンブックは、宮沢賢治が好きすぎて首都圏から花巻に移住した地域おこし協力隊員が、任期最終年に活動の集大成の一つとして作成したものです。

たくさんの宮沢賢治関連の観光パンフレットがある中で、実際に花巻を訪れた賢治ファンが「どんなことを感じたのか」を紹介したガイドブックが無いことに気づいたことが作成のきっかけとなりました。移住者の視点と賢治ファンの目線で、かわいらしいイラストを交えながら「賢治ファンが喜びそうな場所」や「地元をよく知る賢治愛好家の皆さん」なども紹介しています。

このファンブックには、宮沢賢治と花巻の楽しみかたが詰まっています。ぜひ、花巻にお越しの際には、まちを歩きお気に入りの場所を見つけてください。そのお手伝いを「そっと」できるようなファンブックです。

審査委員講評

審査委員長 南伸坊氏（イラストレーター）



大賞の「シメントチョウ シアワセブック」は、デザインワークが優れています。写真が美しく、レイアウトが巧みであって、写真の魅力もそれぞれのモノや人の魅力を引き出して申し分ない。小さくていい写真を小さくして、小さいから魅力的に見せる。大きく使いたい写真は惜しげもなく大きく使い、だから魅力をさらに発揮する。そしてページをひらくごとに目を楽しませるリズムが素晴らしい。文句なしの大賞でした。

優秀賞の「普代村を守った奇跡の水門」は「絵本形式」のパンフレットに始まって、実際に上製本の絵本にもなってしまった変わりダネですが、専門家の絵でも文でもないことが、親しみやすさやニュアンスの魅力を持っています。図書館に寄贈をすれば、新しい展開も望めます。初めから注目されていた作品でした。

賞を逸した作品もそれぞれに美点があり、残念ですが、大概盛り込みすぎて美点の埋もれる傾向があります。次回に期待します。

審査委員 楓千里氏（國學院大學研究開発推進機構 教授）



大賞の高知県四万十町の「シメントチョウ シアワセブック」には圧倒的な写真の力を感じます。今までの審査では、優しい色調とタッチのイラストを使ったパンフレットを、私自身が推す傾向がありましたが、今回は川と海の透明感、沈下橋の日常、イキイキとした自然が写真から伝わり、ぐいぐい引き込まれました。シメントチョウに密着している写真家だからこそ、シャッターを押せた作品だと推測します。「楽しいにんげん」に登場する方々のお人柄を表しているテキストも秀逸です。余白を取ったデザインですっきりしていますが、シメントチョウがずっしり詰まった重みを感じさせてくれる、一冊に仕上がっています。

優秀賞の「普代村を守った奇跡の水門」は、普代村をフィールドとして、地域振興を学ぶ大学生が、村を救った水門の物語を、未永く語り継がれるようにとの思いを込めて制作した作品です。1枚1枚の絵は決して上手ではありませんが、力強さがあり印象に残ります。製本した絵本だけでなく、ミニ版を作成し手に取りやすくするアイデアも評価できます。

審査委員講評

審査委員 パックン氏（お笑いコンビパックンマックン）



日本各地のパンフレットがますますパワーアップしています！今回ももちろん、観光名所や地元のグルメを紹介する、オーソドックスな「観光パンフ」がたくさんあったし、どれも立派なものでした。しかし、その上、移住を勧めるもの、一つだけの名物に絞ったもの、ある歴史的な出来事に集中したもの、地元の職人を中心にしたものなどなど、より「狭く深く」掘り下げるパンフレットも多かったです。実際に遊びに行ったときどれぐらい役に立つかは疑問ですが、まずあの素敵な暮らし、文化、人物を誇るところに行きたい！と強く思いました。

審査委員 マックン氏（お笑いコンビパックンマックン）



第1回から参加させていただいているパンフレット大賞。当時のパンフレットは、おすすめの観光名所、グルメ、お土産、季節ごとの観光の楽しみ方を提案する物が多かったのですが、9年も経つと、内容や紹介の仕方に変化が見られます。また、去年と今年はコロナの渦中、全国的に観光を楽しむ機会が減ってしまい、パンフレットの製作に大変苦労されたと思います。そんな中、去年あたりから増えてきたのが観光プラス「我が街に住んでみませんか？」という移住を提案するパンフレット。急速にリモートワークができる環境が整い、わざわざ都会で暮らす必要がなくなったのでは？という世間の風潮もあり、それに合わせる形で、住みやすい生活環境をアピールするパンフレットが増えたような気がします。もしかしたら、今がパンフレットのターニングポイントになっているときなのでは？と感じながら審査させていただきました。

審査委員 北村 潤一郎（一般財団法人 地域活性化センター 常務理事）



今回も、本格的なものから思わず手にとってしまう個性的なものまで、バラエティ溢れる作品が数多く並んだ。その中で大賞の「シメントチョウ シアワセブック」はとにかく水の写真が綺麗で、これだけでも十分幸せな気分になれる。ガイドブックとしての実用性を兼ね備えているところもイイね。優秀賞の「譜代村を守った奇跡の水門」はぜひとも次世代に伝えていきたい作品だ。

ふるさと動画大賞（第3回） 審査結果

開催趣旨

デジタル・IT分野の発展とともに、年々動画コンテンツは多様性に富んだものとなり、人々の日常に深く溶け込んでいる。自治体においても、ふるさとの魅力を発信するプロモーションとしてデジタルマーケティングの推進は欠かせないものとなっている。

この流れを受け、地域活性化センターでは、動画コンテンツによる地域情報発信を支援するために、「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさと動画大賞」を開催し、全国各地の創意工夫に満ちた動画コンテンツを募集、表彰する。

審査委員

審査委員長	箭内 道彦	氏	(クリエイティブディレクター)
審査委員	秋吉 久美子	氏	(女優)
	木川 剛志	氏	(和歌山大学観光学部 教授)
	松原 亨	氏	(株式会社マガジンハウス コロカル編集部編集長)
	谷中 修吾	氏	(一般社団法人INSPIRE 代表理事)
	北村 潤一郎		(一般財団法人地域活性化センター 常務理事)

応募作品数

143点

受賞作品数

8点

賞 (各1点)	受賞自治体 (上段) ・作品名 (下段)
大賞	青森県大鰐町 家族のかたち、大鰐の暮らし
優秀賞	新潟県佐渡市 SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists
箭内道彦賞	京都府福知山市 福知山市コンセプトムービー「光秀マインド」 (3分ver.)
秋吉久美子賞	岐阜県郡上市 The snowy landscape of Japan's heartland 【Gujo,japan】
木川剛志賞	福井県越前市 手仕事を巡る旅 越前叡智[えちぜんえいち] Craft Tourism Echizen
松原亨賞	山梨県富士吉田市 西裏 Nishiura Bar District
谷中修吾賞	滋賀県長浜市 長浜市公式MV「We Want Ones -長浜市役所で働こう-」 (職員採用PRソング)
地域活性化センター賞	富山県富山市 AMAZING TOYAMA ～この地を選んだ理由～ 【ダイジェスト版】

ふるさと動画大賞（第3回） 入賞作品

大賞 青森県大鰐町

家族のかたち、大鰐の暮らし



優秀賞 新潟県佐渡市

SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists



箭内道彦賞 京都府福知山市

福知山市コンセプトムービー「光秀マインド」
(3分ver.)



秋吉久美子賞 岐阜県郡上市

The snowy landscape of Japan's heartland
【Gujo, Japan】



木川剛志賞 福井県越前市

手仕事を巡る旅 越前叡智[えちぜんえいち]
Craft Tourism Echizen



松原亨賞 山梨県富士吉田市

西裏 Nishiura Bar District



谷中修吾賞 滋賀県長浜市

長浜市公式MV「We Want Ones -長浜市役所で働こう-」
(職員採用PRソング)



地域活性化センター賞 富山県富山市

AMAZING TOYAMA ～この地を選んだ理由～
【ダイジェスト版】



※上記掲載の画像は、サムネイルと異なる場合がございます。

大賞

青森県大鰐町

家族のかたち、大鰐の暮らし



作品概要

本映像は、「子育て」をテーマに、大鰐町に住む家族（りんご農家）の何気ない姿を映し、大鰐暮らしの魅力を伝える移住定住のPRムービーになっています。四季折々の美しい風景や温泉・弘南鉄道などの身近にある施設、町を支えるりんご産業、雪遊びに興じる家族の姿など、いつでも子どもの無邪気な笑顔がそこにある、大鰐での子育ての魅力が詰まった映像です。

<https://www.youtube.com/watch?v=QwO-YaanAcU>

審査コメント（講評から抜粋）

- ・映像の美しさだけに留まらぬ、強い「企画」があった。そこに町の意志が鼓動として聴こえて来る。
- ・まさに移住に取り組んだ大作の風格があり、訴える力の強さに見入りました。
- ・この時代に大切な何かを伝えてくれる映像でした。映像には、地域に根ざした大家族の姿、生活、美しい人間の営みがありました。現代人の多くはこの暮らしを得ることはできません。しかし、その映像から伝わる温かさは、これからの地方のあり方を考えさせてくれました。
- ・フィルムっぽい色調や地面スレスレのカメラアングルなど緻密な撮影手法で視聴者の心に直接触れてくるような親密さを生み出している。「空気公団」の音楽の魅力も大きい。
- ・子供の眼から見た移住の暮らしという視点が斬新で、若しも自分に同じ位の年齢の子供がいたらこんな体験をさせてあげたいなあと思いながら見入ってしまった。子供が生き生きと地域の中で暮らしていく姿の映像が、移住を考える家族の背中をそっと押してくれるような作品で、移住PR動画として秀逸だと感じた。

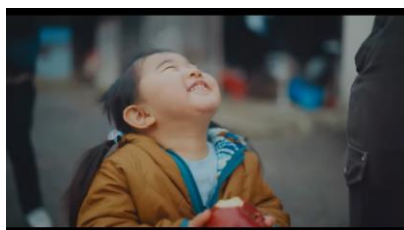
受賞団体コメント（青森県大鰐町企画観光課）

このたびは、「ふるさと動画大賞（第3回）」の大変名誉ある「大賞」にご選出いただき、誠にありがとうございます。制作に携わりました関係者の皆さま方には、心より感謝申し上げます。大鰐町は、800年以上の歴史ある「大鰐温泉郷」として人々から親しまれてきました。現在でも昔ながらの公衆浴場や観光客が訪れる日帰り温泉などがあり、温泉が生活に密接に関わっています。

本作品は、大鰐の温泉や町の主要産業であるりんごなどを映しつつ、ふるさとの何気ない暮らしの魅力を伝え、町の移住促進に繋がればとの思いから制作したものです。今回の受賞を機に、多くの皆さまに大鰐町を知っていただき、大鰐町に足を運んでいただけたら幸いです。

動画の注目ポイント

全編4K画質で描かれる大鰐の美しい風景と、その風景を彩る音楽（主題歌「大切な風景」作詞作曲：空気公団）も楽しみながらご覧ください。



優秀賞

新潟県佐渡市

SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists



作品概要

新潟県佐渡市は、2023年の佐渡金銀山世界遺産登録を目指しています。佐渡では、平安時代から金の採取が行われていたといわれ、佐渡最古の「西三川砂金山」をはじめとする、16世紀末から開発された「相川・鶴子金銀山」や明治期以降の近代化による鉱山施設群をダイナミックな映像で紹介しています。映像を通して、佐渡金銀山の400年以上にわたる歴史のロマンを感じ、新たな魅力をぜひご堪能ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=RTTAZ7RBFtQ>

審査コメント（講評から抜粋）

- ・観光映像として素晴らしいものでした。雄大な自然と物語る近代化遺産、佐渡のもつ観光資源を美しく歌い上げています。住民にとって当たり前風景が、日本だけでなく世界中の人から見ても美しいと思えるだろう。
- ・スタイリッシュな映像と編集で見るものにトレジャーハンティングのワクワク感を芽生えさせる。
- ・切り口を金山銀山に絞り、歴史を重ね合わせることで佐渡全体の魅力を浮かび上がらせることに成功している。

受賞団体コメント（新潟県佐渡市世界遺産推進課）

このたびは、「地域プロモーションアワード2021ふるさと動画大賞（第3回）」において、「優秀賞」という大変栄誉ある賞を頂戴することができ、大変嬉しく思います。佐渡市は、自然・文化が豊かで、多くの観光資源があります。そのなかで今回受賞しました動画は、世界遺産登録を目指す佐渡金銀山の歴史や価値を多くの皆さまに知っていただくために作成したものです。

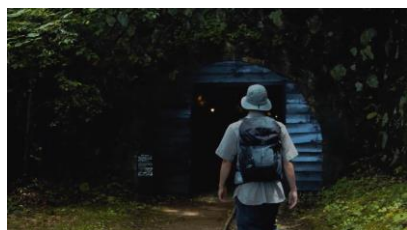
本動画をご覧になった方々が、佐渡金銀山に興味を持ち「現地を訪れたい」、世界遺産登録に向けた取組みに「協力したい」と思っていただけで幸いです。

また、これを契機に、ぜひ佐渡市へ足をお運びください。

皆さまのお越しをお待ちしております。

動画の注目ポイント

2：43～ 美しい夜空と、360度カメラで撮影した北沢浮遊選鉱場跡を是非ご覧ください！



箭内道彦賞

京都府福知山市

福知山市コンセプトムービー「光秀マインド」（3分ver.）



<https://youtu.be/-4BRB37bor8>

作品概要

大河ドラマ『麒麟がくる』の放送により、全国から注目が集まった明智光秀ゆかりの地・京都府福知山市。光秀が築いた福知山城は、一時は石垣と一部の遺構だけになったが、なぜ昭和の時代に再建を果たすことができたのか。そこには、先人たちの「まちづくりへの挑戦心」＝「光秀マインド」がありました。光秀時代から現在まで脈々と受け継がれてきたマインドが、まちの魅力や資産であることを市内外に伝えるために制作した動画です。



箭内道彦審査委員長

審査コメント

その挑戦に可能性を感じた福知山市のアクションを個人賞に選んだ。市民性に「光秀マインド」と名づけ、あるべき姿をひとりひとりに再自覚させながら、最新の成果を示すことで、まちづくりに力を与える。地域動画の新しい在り方のひとつだ。

受賞団体コメント（京都府福知山市秘書広報課 シティプロモーション係）

この度は、「箭内道彦賞」をいただき、誠にありがとうございます。

光秀を主人公とする大河ドラマの放送が始まり、まちが盛り上がる最中、押し寄せた新型コロナウイルス。それでも挑戦を続けながら、過去を掘り起こし、通底するマインドをこうして形に残せたことは、大河レガシーの1つです。

今を生きる私たちも光秀マインドを次世代に引き継いでいかなければなりません。まちはそこに生きる一人一人が作り上げていくものであることを、動画の制作を通じて改めて感じました。

この動画をきっかけに、様々な挑戦を続ける福知山市に興味を持っていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

0:35～0:57/瓦一枚運動（寄附）により再建を果たした福知山城。当時の新聞記事を探し出し、映し出す順番を熟考しました。歴史に再び光が当たり、時計の針が新たな時を刻み始める様子をぜひご覧ください！



秋吉久美子賞

岐阜県郡上市

The snowy landscape of Japan's heartland 【Gujo,japan】



<https://www.youtube.com/watch?v=zvgrbez-prk>

作品概要

日本のほぼ中心に位置し、2,000m近い数々の名峰や一級河川をいくつも支流に持つ清流長良川など、豊かな自然に囲まれている岐阜県郡上市。年間を通して様々なアクティビティが楽しめる環境に加え、多くの歴史や文化を育んできた地域でもあります。この動画では、郡上の豊富なコンテンツを疑似体験できるように、「歴史文化と触れ合うスノーリゾート郡上」をコンセプトに、郡上の強みをユニークな視点で紹介しています。



秋吉久美子審査委員

審査コメント

ワールドワイズに見据えて、郡上市を、しかも雪の郡上を堂々見せ切る思い切りの良さに感嘆しました。

カメラワークと編集、美的クオリティ、全てが伴い白い世界が冴え冴えと繰り広げられて圧巻です。

あれもこれもではなく、視点を定め、冬の郡上の美を、深く突き詰める姿勢は見事です。アウトドアウェアに身を包んで、雪の郡上市を訪れたくなりました。きっとそれは郡上の目眩く神秘体験となりそうです。

受賞団体コメント（岐阜県郡上市商工観光部観光課）

郡上市では、「自然・歴史・文化が織りなす体験ツーリズムのまち」としてPRに取り組んでいます。近年、自分の住むまちにはない、他のまちの日常である「異日常」が求められていますが、郡上は広い市域に豊富にある異日常を体験できるまちです。その要素を動画にぎゅっと詰め込み、コロナ禍においても、郡上の魅力を疑似体験できるように制作しました。

この動画は、撮影、編集から出演者まで、制作に関する全てを郡上で暮らす人で作成しました。地域のクリエイターが持つ力が、ふるさと動画大賞（第3回）の「秋吉久美子賞」という栄えある賞に選出されたことは大きな喜びです。この受賞を一つの契機として、郡上市に住む人や興味がある人が郡上の魅力や持っている力を知り、地域に携わる機会が増え、郡上市の持続可能性が高まることを願っています。

動画の注目ポイント

美しい自然環境、歴史や文化はもちろんですが、郡上に暮らす人やその生活こそが、郡上の大きな魅力であることを語っています。1分44秒から始まる生活感たっぷりの内容こそが郡上の魅力の根源です。



木川剛志賞

福井県越前市

手仕事を巡る旅 越前叡智[えちぜんえいち]

Craft Tourism Echizen



<https://youtu.be/2ZxkIV1Lnts>



木川剛志審査委員

審査コメント

越前和紙、越前打ち刃物など、福井には世界に誇る伝統工芸品があります。しかしそれらは製品なので、その製品自体の良さには気付いても、それらを生み出す人々、風土は目に見えにくいものです。この映像は、伝統工芸品が生まれる瞬間を、職人の手に焦点を当てて伝えます。迷いのない職人たちの手の動きに、昔から続く製品の確かさ、伝統が見えました。また、映像の終盤には地域の祭の風景。これによってこの手仕事が地域の悠久の歴史の中で紡ぎ出されたことがしっかりと語られていました。工芸品を手にとった時、その先の想像を誘う、美しい映像でした。

受賞団体コメント（福井県越前市観光交流推進課）

この度は、「木川剛志賞」に選出いただき、誠にありがとうございます。越前和紙はピカソや横山大観が使用していました。現在も、様々な世界中のアーティストが愛用しています。また、越前打ち刃物は、世界最高のレストランと称される「NOMA（デンマーク）」のチームをはじめ、多くのミシュラン星付きシェフに使われています。このような越前市の強みである「ものづくり」とともに、それらの背景を世界中に伝え、観光誘客だけでなく、越前市の伝統的工芸品の認知度アップを図るために、越前市が手仕事の集積地であることを丁寧に奥深く伝えようと、この動画を制作しました。この動画を通じて、少しでも多くの方に越前市の魅力を感じていただけたら幸いです。

動画の注目ポイント

この動画のストーリーを表現するため、ドローンを使い、神様が舞い降りる&舞い上がるシーンを情緒的に伝えることを心がけました。（0:18~0:28、2:47~2:52）その他、作業風景、作業唄、お祭りの様子に注目してください。



作品概要

越前市は、越前和紙、越前打ち刃物、越前筆筒といった国指定の伝統的工芸品の産地が集積しています。これらの古くから伝わるものづくりの技術が、叡智として脈々と現代まで続き、多くの職人が今でもそれらを継承しています。その叡智をコンセプトに、1500年前、紙漉きを伝えたといわれている神様が、現代にまた天から舞い降り、自分が伝えた技術や自分を祀るお祭りが千年以上の時を越えて続いているのを見て、人々の実直さに感動し、幸せな気持ちになり天に戻るというストーリーで制作しました。

是非、ご覧ください。

松原亨賞

山梨県富士吉田市

西裏 Nishiura Bar District



作品概要

西裏地区は山梨県富士吉田市にあるノスタルジックな飲み屋街です。

歩きたくなる路地の中には多くの飲食店が連なります。老舗の居酒屋・スナックはもちろん、近年は古民家をリノベーションした居酒屋やオシャレなバーなど、新しいお店も続々とオープンしています。レトロと新しさが融合した西裏地区の雰囲気を感じていただきたく、動画を制作しました。

https://www.youtube.com/watch?v=_OJyetN3Peg



松原亨審査委員

審査コメント

動画冒頭から流れるジャズのBGMがトランペットソロの直前でライブ映像となってインサートされるなど、音と映像の小気味いい編集が魅力。富士吉田にこんな横チョがあったのかと、行ってみたいくなりました。「来て来て！」というよりも、さりげなく魅力をみせられるほうが、人は惹きつけられるものですね。

受賞団体コメント（山梨県富士吉田市産業観光部富士山課）

この度は、大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございました。

富士山の麓に位置する富士吉田市は、古くから繊維の産地として栄えてきました。昭和初期には、「一度にガチャンと機（はた）を織るごとに1万円が儲かる。」と言われた時代があり、その頃、富士吉田市に織物を買付けに来た関東一円の商人や地元の男性達が飲み遊んだ場所が西裏（地区）でした。

今もなお昭和の香りが色濃く残る建物や景色が多く、ジャズバーや焼き鳥屋、レストラン、居酒屋やスナックなどの100件以上の飲食店が集い、地元の若者からお年寄りまで、また近年では都心や近隣地域の方々も、西裏というディープスポットへいざなわれています。

皆様がたには、この画像を通してディープな西裏を体感し、またこの街にお越しになって楽しい一夜を過ごしていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

西裏地区は、ノスタルジックでアンダーグラウンドなエリア。イベントでの生演奏をBGMにしました。実際の演奏風景とリンクさせた1：00～1：10の部分は必見です。



谷中修吾賞

滋賀県長浜市

長浜市公式MV

「We Want Ones -長浜市役所で働こう-」（職員採用PRソング）



<https://www.youtube.com/watch?v=Ujj4juVHRzI>

作品概要

公務員の採用PRとしては全国初となる「ヘビーマタル」を楽曲に使用し、作詞、作曲、写真撮影、動画編集すべてが市職員手づくりのミュージックビデオです。長浜市の歴史や文化、魅力などを随所に織り交ぜながら、長浜市役所の業務について説明するとともに、8人の職員が人気コミックの「ジョジョ立ち」ポーズをしながら、「ながはまし」の文字に合わせて市役所が求める人材を紹介しています。市職員募集の動画ですが、なぜか長浜市を観光したくなる、何度も繰り返し見たいくなる作品となっています。



谷中修吾審査委員

審査コメント

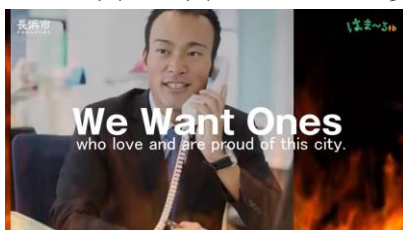
突き抜けた傑作だと思います。長浜市役所様の職員採用という明確な目的を持った動画であり、訴求する価値や演出方法が秀逸でした。本作品が全て職員様の手作りであるという事実もまた突き抜けています。プロモーション施策では、ターゲットに対して行動を促すために、Attention→Interest→Desire→Actionというプロセスを想定します。本作品には、このプロセスを一気通貫で実現できるポテンシャルがありました。行政の在り方そのものが問われる時代の中で、この動画を見て職員採用に応募してくるような変態性を有する方は、長浜市の未来を切り開く貴重な人材になること間違いなし！We Want Ones!!

受賞団体コメント（滋賀県長浜市総務部人事課）

このたびは、「谷中修吾賞」という大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます♪
長浜市では、民間企業の人気の高まりにより、長浜市職員をめざす受験者が年々減少傾向にありました。この現状を打破するため、「どこにでもあるような取組みではなく、『長浜市らしさ』が発揮された独特の発想が必要！」という強い思いで、公務員のイメージとは真逆のヘビーマタルを楽曲に、動画を制作しました。
長浜市のまちづくりの合言葉は「Challenge&Creation（挑戦と創造）」です。この合言葉は職員にも浸透しており、年齢や立場に関係なく「〇〇してみたい！」と提案があれば、上司が応援してくれる職場風土があります。この動画をきっかけに、「自分も長浜市職員になって、未来志向のまちづくりに挑戦したい！」と優秀な人材が集まってくれることを心から願っています。

動画の注目ポイント

“シャウト”で「な・が・は・まー！」と叫ぶインパクトと衝撃からスタートし、速めのテンポに合わせて次から次へとシーンが変わっていくので、飽きることなく動画を楽しんでいただけます♪



地域活性化センター賞

富山県富山市

AMAZING TOYAMA ～この地を選んだ理由～

【ダイジェスト版】



作品概要

富山市の様々な分野で活動する5人にスポットを当て、その暮らしの中にある営みを通して、富山湾や立山連峰などの雄大な自然の恵みを映し出すことで富山の魅力を紐解き、音と映像で表現しました。

彼らが語る「この地を選んだ理由」からは、これまで私たちが知っている富山とは全く違う印象を受けます。

<https://youtu.be/R8br2bXAtcY>



北村潤一郎審査委員

審査コメント

「AMAZING TOYAMA ～この地を選んだ理由～」は、富山でのさまざまな日常の営みを通して、目を見張る大自然や地元ならではの匠の技・食材など地域の魅力がストレートに伝わってくる作品。次は富山に行きたくなった自分がいる。

受賞団体コメント（富山県富山市企画管理部広報課）

この度は、「地域活性化センター賞」を賜り、誠にありがとうございます。

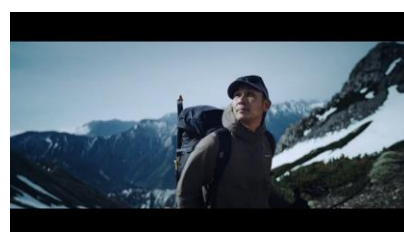
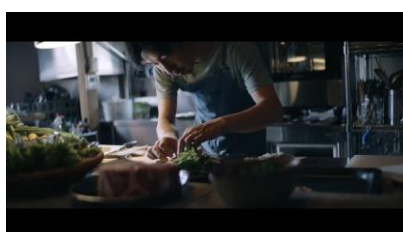
富山市は、富山湾から立山連峰まで、標高差約4,000mの雄大な自然、菓業をはじめとする様々な産業と高度な都市機能、そして多様な文化と歴史を併せ持つ日本海有数の中核都市です。

哲学博士のジョセフ・ランゾウ稲田氏は、「富山とはあたかも夢が現実になったまちである」と表現し、環境に配慮した持続可能性を追求している未来志向型のまち、そして親切で慎み深い人々がいるまちであると述べています。そのような富山を拠点に選び、活躍する5人の活動家が語る富山の世界観に、動画を見た方はきっと惹きつけられると思います。

この映像を通じて、富山市に興味を持ち、いずれは彼らのように、富山の地を選んで活動していただける人が増えていくことを願っています。

動画の注目ポイント

富山で活躍する「人」にスポットを当て、その背景にある魅力や豊かさを随所に詰め込んだ映像です。映像の美しさだけでなく、目を閉じれば風景を想像させる音にも注目し、アメイジングな「富山」を感じてください。



審査委員講評

審査委員長 箭内 道彦 氏（クリエイティブディレクター）



文化、歴史、景観、名産、生活...その地域特有の財産を、シビックプライドを持って、映像美とともに宣伝する、そんな秀作が数多く集まった。同時に、足りないものも見えて来る。それは「企画」の有無。今後の地域動画の伸びしろと進化を、その部分に感じている。

土地の魅力を多くの人に知っていただいて来訪を促すことは、プロモーション動画の大きな使命のひとつであることに違いないが、動画にはまだまだもっと大きな力がある。それは、観る者と課題を共有すること。ともに考え、行動を喚起させ、その地の未来をデザインすること。時に観る者の人生をも変えながら。

大賞の大鰐町にはそれがあった。映像の美しさだけに留まらぬ、強い「企画」があった。そこに町の意志が鼓動として聴こえて来る。動画は、地域をさらに活性化させることができる。その力を、より多くの行政担当者、首長、そして制作者自身が信じて欲しい、そう強く願う。

審査委員 秋吉 久美子 氏（女優）



どの地域の動画も、渾身の力を込めて、或いは知恵を絞り、真摯に、誠実に、地域の良さをアピールしている。日本の隅々に行き渡る、地域力の結集「ふるさと動画大賞」にふさわしいエントリーでした。勇気を与えられました。

ドキュメンタリータッチの「家族のかたち、大鰐の暮らし」はまさに移住に取り組んだ大作の風格があり、訴える力の強さに見入りました。

審査委員 木川 剛志 氏（和歌山大学観光学部 教授）



COVID-19が世界中を翻弄してきました。この影響で「ワーケーション」といった新しい概念が生まれるなど、観光と地方の意味があらためて問われています。

大賞に選ばれた青森県大鰐町の「家族のかたち、大鰐の暮らし」はこの時代に大切な何かを伝えてくれる映像でした。映像には、地域に根ざした大家族の姿、生活、美しい人間の営みがありました。現代人の多くはこの暮らしを得ることはできません。しかし、その映像から伝わる温かさは、これからの地方のあり方を考えさせてくれました。

また、優秀賞に選ばれた新潟県佐渡市の「SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists」は観光映像として素晴らしいものでした。雄大な自然と物語る近代化遺産、佐渡のもつ観光資源を美しく歌い上げています。住民にとって当たり前の風景が、日本だけでなく世界中の人から見ても美しいと思えるだろう。それが住民たちのシビックプライドにつながります。

審査委員講評

審査委員 松原 亨 氏(株式会社マガジンハウス コロカル編集部編集長)



大賞となった大鰐町の作品は、フィルムっぽい色調や地面スレスレのカメラアングルなど緻密な撮影手法で視聴者の心に直接触れてくるような親密さを生み出している。「空気公団」の音楽の魅力も大きい。優秀賞の佐渡市の作品はスタイリッシュな映像と編集で見るものにトレジャーハンティングのワクワク感を芽生えさせる。

応募作品全体の印象としては、伝えたいテーマをしっかりと絞り込んだ映像じゃないと視聴者の心に届かない、ということ強く感じた。あれもこれも詰め込んだ「名物のダイジェスト」的な動画は心に残らない。

審査委員 谷中 修吾 氏（一般社団法人INSPIRE 代表理事）



動画の評価方法は多種多様ですが、“地域プロモーションとしての動画”を評価する際には、「動画によって実現したい目的は何か?」「その目的を効果的に達成できているか?」ということが極めて重要な指標となります。

基本的に、地域プロモーションの目的は、移住促進、観光促進、特産品購入促進、地域づくり人材獲得、その他に集約されるため、常に目的を忘れないようにすることが肝要です。動画制作と言うと、「美しさ」「かっこよさ」「面白さ」など演出面に目がいきがちですが、そもそも達成したい目的と乖離しては意味がありません。

この観点から総評すると、今回の動画大賞の全体を通じて、目的設定とその達成手段として動画の意義が明確である作品ほど、評価が高かったと思います。動画制作が一般的になっている現代、地域プロモーションの目的に立ち戻った動画戦略の重要性が高まっているとも言えるでしょう。

審査委員 北村 潤一郎（一般財団法人地域活性化センター 常務理事）



今回も前回に続いてコロナ禍という特殊な状況での動画作成になったが、これまで同様、それぞれに工夫を凝らし地域の魅力に溢れた数多くの作品の応募をいただいた。

いずれ劣らぬ力作ぞろいの中で、大賞の「家族のかたち、大鰐の暮らし」は、子供の眼から見た移住の暮らしという視点が斬新で、若しも自分に同じ位の年齢の子供がいたらこんな体験をさせてあげたいなあと思いながら見入ってしまった。子供が生き生きと地域の中で暮らしていく姿の映像が、移住を考える家族の背中をそっと押してくれるような作品で、移住PR動画として秀逸だと感じた。

優秀賞「SADO GOLD & SILVER MINES For all Tourists」は、切り口を金山銀山に絞り、歴史を重ね合わせることで佐渡全体の魅力を浮かび上がらせることに成功している。